

持続可能な社会に向けた群馬県民の価値観を探る ～世代により価値観に差があるか～

群馬経済研究所 主席研究員 河村英輝

調査のポイント

世代によって、①コロナ禍が幸福度や生活・仕事等の満足度に与えた影響、②環境やエネルギーなども含めた持続可能な社会に対する意識、③ライフスタイルに関する考え方に差がみられるのかを明らかにするため、アンケート調査を行った。

要約

- コロナ禍は、世代を問わず、幸福度や生活・仕事等の満足度が下がるなどマイナスの影響を与えた。また、調査時点における幸福度や満足度をみると、39歳以下は40歳以上に比べると、幸福度や各種の満足度が低いことが分かった。
- 持続可能な社会を目指すうえで、近年、気候変動や地球温暖化の問題が注目されている。アンケートでは世代を問わず、気候変動や地球温暖化のリスクを減らすために自身の生活や習慣を見直すことに賛同している人が多いことがわかった。
- また、持続可能な社会を目指すうえで避けて通れないのが発電などのエネルギー源の低炭素化に関する問題である。40歳以上の4割が「電気料金が上がっても太陽光発電など再生可能エネルギーの普及を目指す」ことに賛成を示し、反対意見を上回った。
- ライフスタイルに関する考え方については、世代を問わず「良い物を長く大切に」し、「ゆっくりとした時間を持ちたい」、「家族や人々とのつながりの時間を大切にしたい」との考えに賛同する声が多かった。
- 自由回答では、39歳以下は身近なこと、40歳以上は社会全体を見渡した意見が多かった。また、世代を問わず、人とのつながりの重要性、自分や生活を見直すこと、家族との関わり方、時間の使い方、旅行、などに関するものが多くみられた。